

20年  
第1回  
定例区議会

# 命とくらしを守れ 区民要求実現へ全力 日本共産党



3月30日区長に対し緊急申し入れ

2020年第1回定例会は、2月12日開会、新型コロナウイルス感染症対策で会期を短縮し3月17日閉会しました。区議団は、一般質問、常任委員会、予算特別委員会で、区民のくらし、福祉、健康を守る立場で奮闘。また、予算特別委員会で、3月突然の休校で給食が中止となり、困窮する世帯への対策を要求。「就学援助利用世帯への昼食費補助」が実現しました。

## 区議団申し入れ

3月30日区長に対し、「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急申し入れ」を行い、①補正予算編成など、②区民、中小業者への支援、③感染拡大の防止、医療対応、健康対策、④保育、について計15項目を要請しました。早速保育園入所時の育児休業の延長などが実現しました。



## 2020年度予算案に反対

2020年度予算には、これまで区議団が要望していた学校給食への公費補助、就学援助の入学支度金増額、救済センターの充実、福祉作業所・生活実修所の通所バスの拡充など改善点はあります。

しかし、予算には新規公営住宅建設はなし、生活保護は引き下

げ、その一方で池袋保健所の再開発ビルへの移転計画など大型開発やイケバス(電動バス)など来街者を呼び込む街づくりを進めることなどから一般会計予算に反対しました。また保険料値上げの国民健康保険と後期高齢者医療、保険あって介護なしの介護保険の三特別会計に反対しました。

## またまた国民健康保険料の値上げ!

2020年度国民健康保険料の値上げ条例案と豊島区社会保障推進協議会から出された保険料軽減を求める陳情が区民厚生委員会で審査されました。

審査の中で渡辺議員は「夫婦と子ども二人年収400万円の世帯では、年間保険料が430,919円と収入の一割を超える。また被扶養者が一人増えれば保険料は52,800円も増額となる」と指摘。「これでは保険料が払えない世帯がさらに増えるのは必至」「国や都、区の負担を増額し保険料を下げるべき」と値上げ案に反対、陳情の採択を強く求めました。しかし他会派は条例案に賛成、陳情は不採択としました。



## 性暴力の根絶を目指す決議 自民、公明、都民ファ・民主らが否決

昨年12月、くつざわ亮治豊島区議がSNSで性被害者の人権を踏みにじる内容を発信。区にはこれまで50件を超える抗議、苦情などが寄せられました。

区議団は、区議会としてあらゆる性暴力を絶対に許さないという姿勢を改めて示そうと、共同提案した立憲としま、無所属の会、豊島ネットなどと話し合いを重ね、全会一致で決議をあげられるよう働きかけてきました。

決議案に対し、清水みちこ議員が賛成討論に立ちました。賛成は12、自民、公明、都民ファ、民主などの反対23で否決。反対した区議らは反対討論に立たず、理由を明らかにしませんでした。

 <p><b>渡辺 くみ子</b> 区議団団長 区議団副幹事長 区民厚生委員 施設・用地副委員長 ☎3971-1950</p>	 <p><b>儀武 さとる</b> 区議団幹事長 議会運営副委員長 総務委員 防災・震災委員 ☎3918-9458</p>	 <p><b>小林 ひろみ</b> 都市整備委員 副都心副委員長 行財政委員 ☎3955-8244</p>	 <p><b>清水 みちこ</b> 子ども文教委員 環境・清掃副委員長 ☎6912-8679</p>
--	--	--	---

# 自治体本来の役割をはたし、 命とくらしを守る区政に



## 小林ひろみ議員が一般質問

### 2020年度予算について

#### 稼げる自治体

区長は「公民連携で稼げる自治体を」と表明しました。しかしこれまで公民連携で南デッキを作る等、豊島区は大企業に多額の税金を投入したのです。小林議員は、池袋西口公園や中池公園等「4つの公園」に民間がカフェを設置しその賃料を受け取るというが、賃料を超える金額のイベント補助や維持管理経費をかけているではないか、と質問しました。区長は、「大勢の区民や来街者が池袋を訪れ、周辺の飲食店で過ごすなど経済効果がある」と答えました。

#### イケバスについて

豊島区は池袋の4つの公園をめぐる「イケバス」を進めてきましたが、乗客は少なくガラガラです。にもかかわらず、20年度も「イケバス」の停留所の屋根建設やイケ・サンパーク(造幣局跡地の防災公園)に展望台建設を予定しています。建設費を問うと、区長は「設計したあと積算するため、現時点で未定」と無責任な答弁、そこで「見積もりもないままでは、際限なく上がってしまう」と再質問しました。区長は、イケ・サンパークの展望台は「設計料等を含め5千万円」、グリーン大通りの上屋は「1千万円程度」と答えました。小林議員は、「高すぎる。やめるべき」と追及しました。

#### コミュニティバスについて

小林議員はイケバスの運行費補助をやめ、コミュニティバスの

運行を、と求めました。しかし区は「多くの課題があり、早急に導入することは難しい」と冷たく拒否しました。

#### 給食の無償化

20年度予算で「学校給食への公費補助事業」が始まります。米代を補助して、その分行事食を実施したり、消費税引き上げ分を値上げしないようにする、というのは一歩前進ですが、保護者負担の引下げはしません。「なぜ負担削減に取り組まないのか」と質問。区は、「人件費や施設整備費については区が負担し、材料費については保護者にご負担いただくもの」と答えました。

### 国民健康保険について

20年度も保険料が上がります。保険料を上げ続け、払えない人から保険証を取り上げる資格証や短期証はやめるべき、と追及しました。区は「滞納整理に取り組むことで、資格証、短期証の交付を減少させていきたい」と答えるのみでした。

### 健康施策について

聴覚検査の年齢拡大について質問。区は「対象年齢の拡大は現時点では考えていない」と答弁。また補聴器購入補助の増額を検討すべきと質問すると、増額はしないと冷たい答弁でした。

# 区民のくらしを守り、 安全、安心の区政を

## 儀武さとる議員が一般質問



### 消費税増税に伴う対策について

儀武議員は、昨年10月消費税10%により、景気動向指数は5か月連続、1世帯当たりの消費支出は3か月連続のマイナスになったことを指摘し、増税が区民生活や中小事業者等に深刻な影響を与えている認識はあるのか、と追及。区長は「今後の景気動向については、慎重に見定めていきたい」と答えるのみで、区民の生活実態についての言及はありませんでした。次に、障害者施策について質問。障害者の日中の活動をサポートする地域活動支援センターの補助金については、消費税8%引き上げ時も今回も拡充がないことを指摘し、「来年度予算で拡充すべき」と追及。区長は「消費税増税分の予算措置は考えていない」と冷たい答弁をしました。

### 防災、震災対策について

昨年は台風15号、19号により全国で甚大な被害を受けました。地球温暖化の影響もあり被害の激甚化、広域化が今後も予想されます。豊島区においても、今回の台風により救援センターの運営が重要な課題となりました。特に初動時の開設・運営において、職員の果たす役割が重要です。区の借上げ住宅に住む災害対策要員は34名です。35救援センター等には一人しか配置されていません。

儀武議員は「複数配置を」と求めましたが、区は、半径15km内に住んでいる地域配備職員が役割を担うと答弁し、複数配置を拒否しました。

### 命と健康を守る区の課題について

がん検診はがんの早期発見、早期治療につなげるもので大事です。肺がんCT検査は希望者が多く、区民から「予約が取れない」と苦情が寄せられています。儀武議員は「区はあらゆる方策を講じ、直ちに低線量CT検査ができるよう対応すること」を求めました。区は「検診枠の増設とともに低線量CT等、新機器導入の可能性も、調査・研究していく」と答弁しました。

次に、儀武議員は都立大塚病院の独立行政法人化(民営化等)について質問。小池都知事が、昨年12月に突然、14カ所の都立・公社病院の独法化を表明したことに対し、儀武議員は「都立大塚病院は都指定の災害時の二次医療機関であり、総合周産期母子医療センター、地域の拠点病院である。都知事に独法化の撤回を求めよ」と追及。

区は、撤回を都知事に働きかける考えはない、と答弁しました。

